# 平成30年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学大学院工学研究科球環境デザイン学専攻教授	
研究テーマ	少子高齢社会における夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に	
	関する研究	

## 研究の目的:

本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の 生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映し た都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

### 研究の経過(4月~3月):

地方都市において衰退する歓楽街の活性化に関する研究の一環として、昨年度実施した宇都宮市泉町・本町を含む宇都宮市内3か所の歓楽街来訪者に対する夜の飲酒活動の実態および泉町・本町に対する意識を把握するためのアンケート調査データの分析、3か所の店舗種別に関する調査を実施した。同時に、泉町・本町自治会長や飲食街振興会会長等を交えて、活性化の可能性について意見交換を行った。別途、宇都宮市居住者に対する同様のWebアンケート調査も実施した。また、モンゴル、ウランバートル市内6大学の大学生に対して、夜を含めた自由時間の使い方の実態と満足度、幸福感に関するアンケート調査を実施した。

### 研究の成果(自己評価含む):

宇都宮市内3か所の歓楽街の店舗調査の結果、泉町・本町は一件目に訪れることが多いと考えられる飲食を主目的とする店舗よりも、従業員とのコミュニケーションを主目的とする店舗が多いことが明らかとなった。また、歓楽街来訪者および宇都宮市民に対する Web アンケート調査データの分析の結果、泉町・本町は、認知度が低く、訪問頻度が低い、訪問者の年齢層が高いことなど、泉町・本町と他2か所との来訪者の個人特性や来訪理由の違い等が明らかとなり、情報提供が不足していることが課題の一つであると認識されたため、認知度向上および来訪者数増加を目的とした Web サイトのデザインを行った。

モンゴル、ウランバートルの大学生に対する調査の結果、昼と夜の自由活動の満足度が主観的幸福 感に影響を与えていること、世帯構成、出身地、大学の立地等の個人特性、自由時間の活動内容、時 間的・経済的な不満、施設や交通に対する不満等が、自由活動の満足度および主観的幸福感に影響を 与えていることが明らかとなった。

#### 今後の課題:

地方都市における衰退歓楽街については、引き続き、地元関係者とともに今後目指す街の姿について議論を行った上で、歓楽街活性化の可能性について検討を行うことを課題としたい。また、夜の都市や交通に関する海外・国内の文献・資料のレビューや関係者へのヒアリングをさらに進め、地域コミュニティにおける夜の役割、夜のバリアフリーという視点から、夜の活動の意味や位置づけを探求していきたいと考えている。